

子どものころ、下校途中のペットショップで展示品のようにディスプレイされていたかわいい動物を見に行くことが度々ありました。珍しく美しい海外の動物がそろっていました。昔は、自分も一目ぼれしてしまい何種類か購入したことがあり、亡くなるまで飼っていました。現在も、信じられない程の種類がペットショップで販売されています。私は、自然保護のために外来種を駆除することが多く、海外の生き物を購入したあの頃の自分とのギャップについて考えることがあります。許可や申請などをクリアして販売された生き物たちでも、逃げ出したり、無責任な飼い主が見捨てたりする例はこれまで非常に多かったと思われまます。事実、現在もその問題が続いています。人間の無責任な行動により、被害を受けるペットやもともとその地に存在する自然の生き物は本当に気の毒です。ペットから外来種に変わった生き物を駆除するのは、もちろんかわいそうですが、何もしないで在来種が絶滅していくこともかわいそうに思います。駆除をしてもしなくても、自然保護活動の後味は悪いのですが、行動を起こすしかないのが現状です。



駆除したアライグマ

残念ながら、何かを犠牲にするという選択しかありません。外来種であろうと命を奪うという点でモラル的に正しいことであるとはいいい切れません。

人間の気まぐれやわがままから生まれる過ちは世の中を住みにくくすることが多いため、事前によく考え、飼うと決めたら途中で生き物を捨てるようなことはやめましょう。やはり、罪のない生き物たちはみんなかわいそうですから…。

春は、たくさんの生き物が繁殖のために活発化します。それらへの外来種の影響を減らすために保護活動を行うこの頃のお話です。(パブロ)